



応用数学第一

第一回

梶本裕之



やること

フーリエ変換という，工学者にとっての常識・一般教養を身につけます．

梶本が担当する学部3年のインタラクティブシステム論では，フーリエ変換を含んだ幾つかの研究用のツールを，「ツールとして使える」ことを目標に，プログラミングレポート課題を重視した講義を行います（宣伝）．

対して本講義は，工学者の共通教養として「きちんと数式展開できる」を重視し，数式展開，演習問題を重視した講義を行います．



日程

講義番号	講義日	講義内容	pdf	video	レポート締め切り
1	10/6	周期関数、フーリエ級数の定義	[pdf](2021年版)	video	10/13
2	10/13	フーリエ級数の計算例	[pdf](2021年版)	video	10/20
3	10/20	複素フーリエ級数、直交関数系	[pdf](2021年版)	video	10/27
4	10/27	周期関数のたたみこみ、パーセバルの等式	[pdf](2021年版)	video	11/3
-	11/3	文化の日			
5	11/10	非周期関数、フーリエ変換の定義・計算例	[pdf](2021年版)	video	11/17
-	11/17	調布祭準備			
6	11/24	フーリエ変換の性質	[pdf](2021年版)	video	12/1
7	12/1	デルタ関数とフーリエ変換、たたみこみのフーリエ変換、パーセバルの等式	[pdf](2021年版)	video	12/8
-	12/8	中間確認テスト（前半。現在は大学を予定）	中間確認テスト用問題集	[pdf](2021年版)	
8	12/15	離散時間信号と離散時間フーリエ変換（教科書外）	[pdf](2021年版)	video	12/22
9	12/22	離散フーリエ変換（教科書外）	[pdf](2021年版)	video	1/5
10	1/5	離散フーリエ変換の性質（教科書外）	[pdf](2021年版)	video	1/12
11	1/12	サンプリング定理	[pdf](2021年版)	video	1/19
12	1/19	ラプラス変換の定義と性質	[pdf](2021年版)	video	1/26
13	1/26	線形常微分方程式のラプラス変換による解法	[pdf](2021年版)	video	2/2
-	2/2	期末確認テスト（後半。現在は大学を予定）	期末テスト用問題集	[pdf](2021年版)	



評価方法

2022年度はレポート・期末試験の結果を、次のように総合評価する予定です。

$$(\text{レポート} \times 20\%) + (\text{中間試験} \times 40\%) + (\text{期末試験} \times 40\%)$$

ただし状況の変化によっては中間試験を行わなかったり、期末試験がレポートに変わる可能性があります。



情報源

授業資料のページ

<https://kaji-lab.jp/ja/index.php?people/kaji/appliedmathematics>

梶本研ページ⇒メンバー⇒梶本⇒教育
レポート提出のリンクもあります

動画を含め、昨年の資料が置かれています。pdfについては順次新しくします。（動画は更新しません）

課題も含めて変更されることがあるので、新しい年度の資料になってからレポートに取り掛かってください。出席点はありませんが、出席して集中して取り組む方が良いと思えるよう努力します。

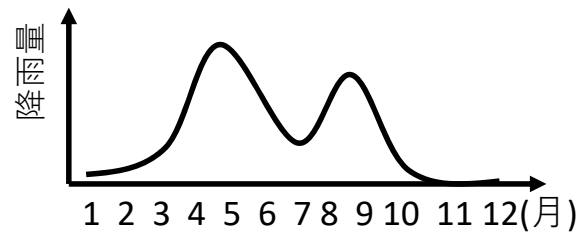
周期関数とフーリエ級数展開



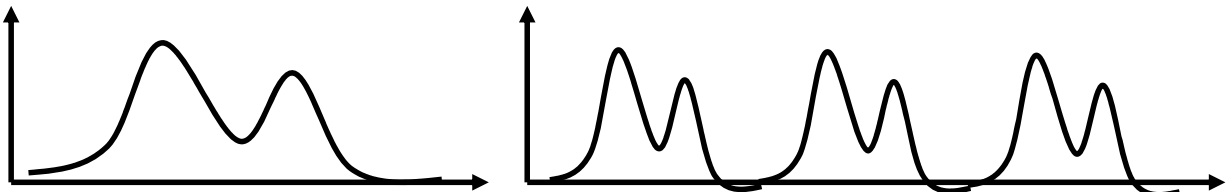
データを取ると「関数」になる



- 洪水の記録, 天体現象の記録, etc...
- データを蓄積していくことは比較的容易. 古代人でもできるし, やっていた.
- ここで得られたデータは, 例えば時間 t の関数 $f(t)$ を与える.



関数を「分析」したい

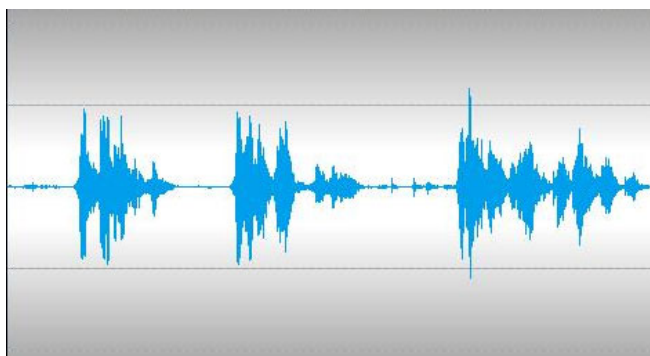


得られた関数から, 何らかの性質を発見したい. 「分析」したい.
分析: 要素に分けること. では要素とは?

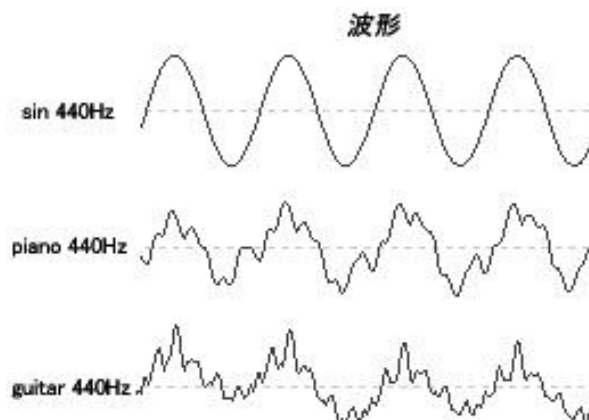
- 世の中の多くの現象は, 繰り返し (周期) 現象である.
 - ✓ 1年周期の降雨量, 月の満ち欠け, 海の波, 鐘の音
- 繰り返し現象を分析, すなわち要素に分けられれば色々わかるのでは?



多くの現象は繰り返し現象である



<http://kotoba.wafflecell.com/blog/?p=80>

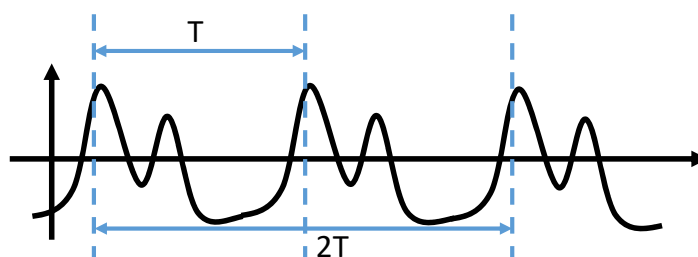


<http://www.geocities.jp/flawtips0/Pic/wav1.html>

- 例えば音波形は、大域的にはもちろん繰り返しではない。
- しかし「音色」のレベルを見る微視的視点では、明らかに繰り返している。しかも違う音色は違う波形で繰り返している。逆に繰り返し波形の「分析」が出来れば、音色の正体が「わかる」。



用語の定義



関数 $f(x)$ のすべての x に対して、

が成立するとき、 T を $f(x)$ の**周期**と呼ぶ。

周期は無限個ある。 T が周期なら $2T, 3T, \dots$ も周期となる。
最も小さい周期を**基本周期**と呼ぶ。

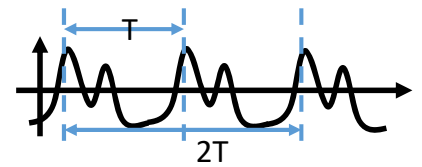
例 1 : $\sin(x)$ の周期は？

これは $T=2k\pi$ (k は整数) なら成立。よって周期

基本周期



周期関数・非周期関数



例2： $\sin(\sqrt{7}x)$ の周期は？

これは $\sin(\sqrt{m}x)$ なら成立. よって周期

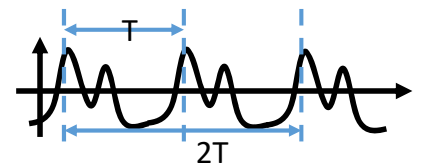
基本周期

例3： $2\cos(2x)+3\sin(3x)$ の周期は？

これは $\sin(\sqrt{m}x)$ となるような m, n があれば成立.
両辺を割ると, $\frac{2\cos(2x)}{3\sin(3x)}$ ということは, $\frac{2}{3} \cot(2x) \tan(3x)$ で成立するから,
基本周期は $\frac{2\pi}{2} = \pi$ 周期は $\frac{2\pi}{3}$



周期関数・非周期関数



例4： $\exp(x)$ は周期関数か？ → 単調増加だから明らかに違う

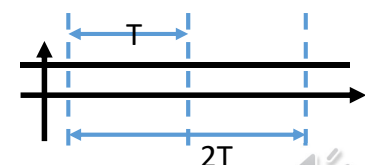
例5： $\cos(2x)+\sin(\sqrt{7}x)$ は周期関数か？

これは $\sin(\sqrt{m}x)$ となるような m, n があれば成立.
両辺を割ると

これは左辺は無理数で右辺は有理数なので矛盾. よって周期関数ではない.

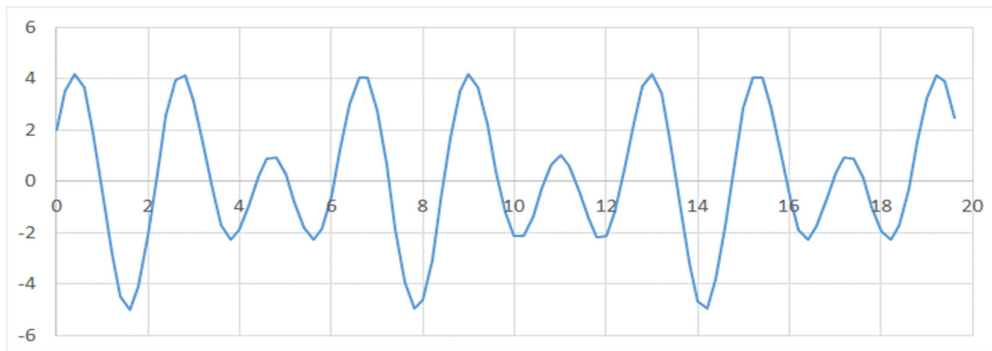
例6： $f(x)=c$ (一定値) は周期関数か？

これはあらゆる周期が可能な特殊な周期関数
(\because どんな場合も $f(x)=f(x+T)$ が成立する)

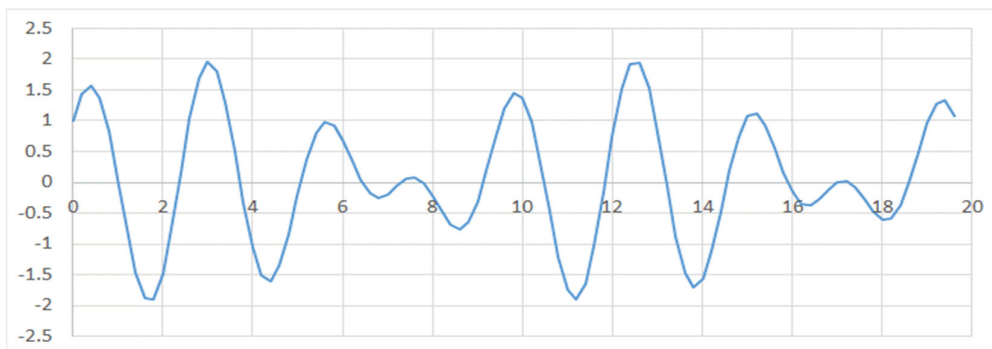


検証 (Excel)

$$2\cos(2x)+3\sin(3x)$$



$$\cos(2x)+\sin(\sqrt{7}x)$$



周期関数の縮尺

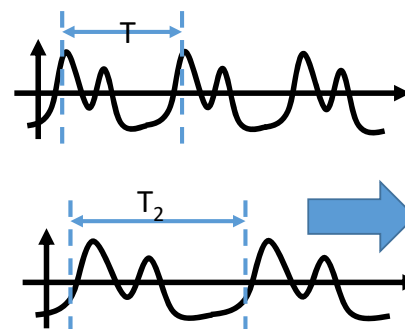
周期関数の縮尺は容易に変更できる。

周期 T の関数 $f(x)$ に対して、新たな関数 $g(x)$ を

$$g(x) = f\left(\frac{T}{T_2}x\right)$$

とすると、 $g(x)$ の周期は、 T_2 になる

∴

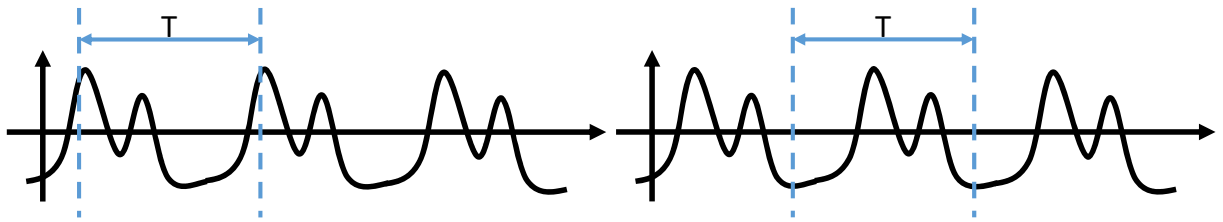


よって例えば、 $T_2=2\pi$ と置くことで、任意の周期関数は周期 2π の周期関数にできる。

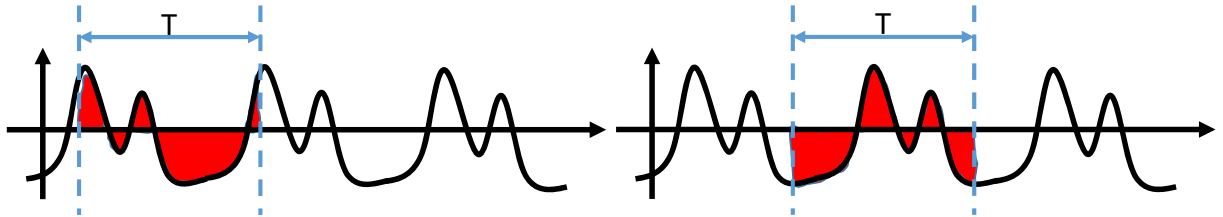


周期関数の位置取り

周期関数は、どこから区切りはじめても、周期関数になる



周期関数は、どこから一周期分積分しても、積分値は変わらない

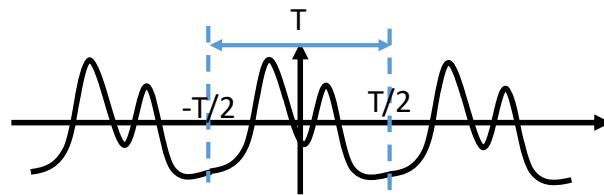


数式で表すなら



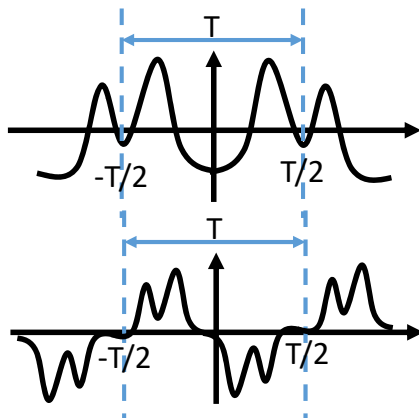
今後の周期関数

x の範囲を、 $-T/2$ から $T/2$ として扱う。

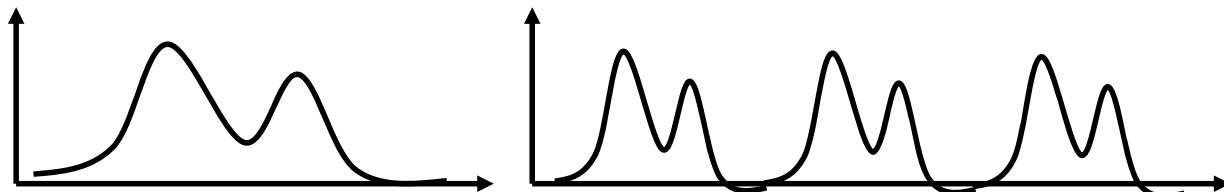


これまでの議論で、このように範囲を定めても一般性を失わない。

また、偶関数（ y 軸線対称な関数）と奇関数（原点对称）の周期関数に対しては次の式が成り立つ。

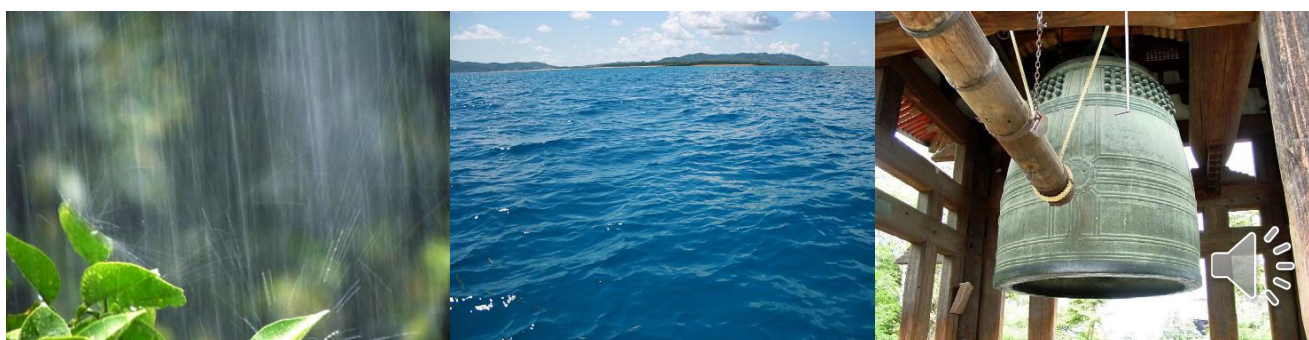


(再) 関数を「分析」したい



得られた関数から、何らかの性質を発見したい。「分析」したい。
分析：要素に分けること。では要素とは？

- 世の中の多くの現象は、繰り返し（周期）現象である。
 - ✓ 1年周期の降雨量，月の満ち欠け，海の波，鐘の音
- 繰り返し現象を分析，すなわち要素に分けられれば色々わかるのでは？ → **周期関数を「要素」に分ける**

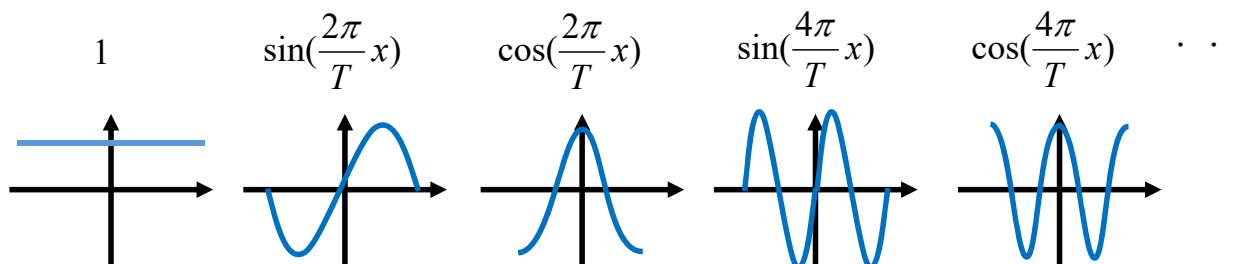


周期関数を要素に分ける

周期関数をより基本的な関数の合成で表す。基本的な関数 = 要素という考え方。

その基本的な関数も，周期 T をもつ関数でなければならない（そうでなければ x が大きくなったときに「ずれて」しまう）

周期 T を持つ基本的な関数として，ごく自然な発想は，



という，正弦波を採用すること。定数も特殊な正弦波。一般化すると，

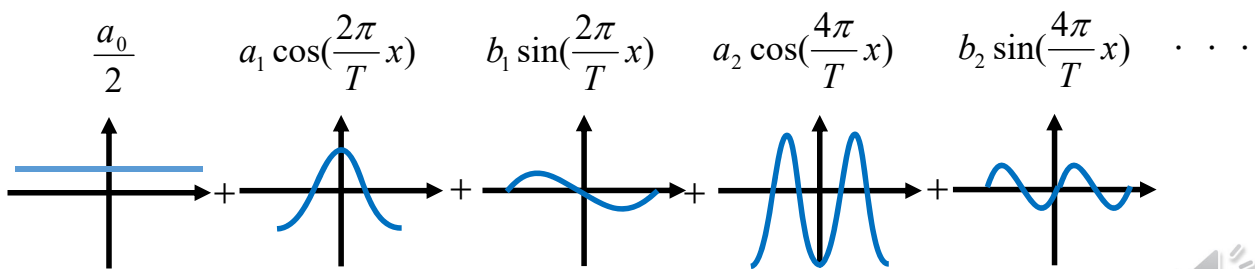
これらは基本周期は T/n だが，周期 T でもある。



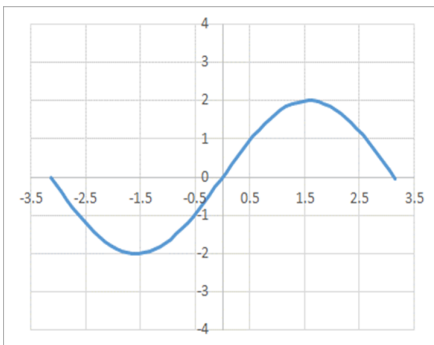
周期関数を要素で表せると仮定する

周期関数を、周期Tの正弦波の合成で表せると仮定する。

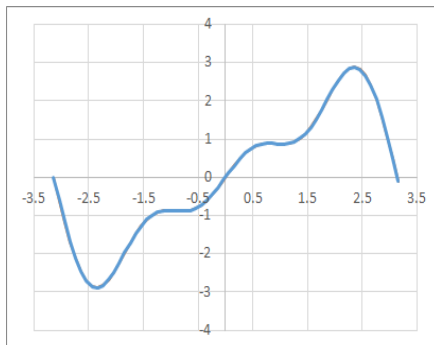
完全にイコール
にならないが漸
近していくこと
を表す



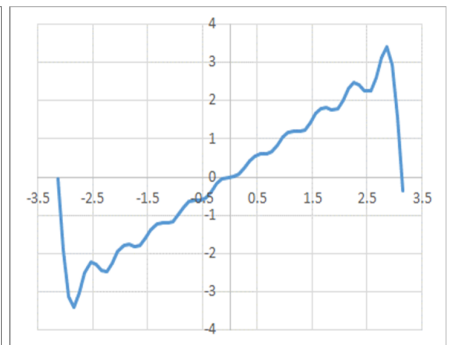
例（詳細は次回）



$$2 \sin\left(\frac{2\pi}{T}x\right)$$



$$2 \sin\left(\frac{2\pi}{T}x\right) - \sin\left(\frac{4\pi}{T}x\right) + \frac{2}{3} \sin\left(\frac{6\pi}{T}x\right)$$



$$2 \sin\left(\frac{2\pi}{T}x\right) - \sin\left(\frac{4\pi}{T}x\right) + \frac{2}{3} \sin\left(\frac{6\pi}{T}x\right) - \frac{1}{2} \sin\left(\frac{8\pi}{T}x\right) + \frac{2}{5} \sin\left(\frac{10\pi}{T}x\right)$$

この例では、係数をうまく選んでやることで鋸波を再現出来るようになる

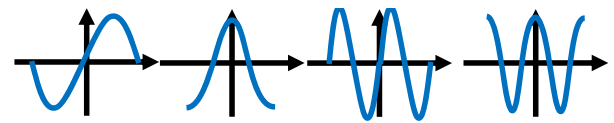


係数 a_n, b_n をどう求めるか

$$f(x) \approx \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} \left(a_n \cos\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) + b_n \sin\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \right)$$

まず a_0 を求めるために、両辺を $-T/2 \sim T/2$ の範囲で積分する。

Σ と積分の順序を入れ替えられるとすると（この仮定は今後もおく）



∵一周期分の正弦波の積分値は0

よって



係数 a_n, b_n をどう求めるか

$$f(x) \approx \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} \left(a_n \cos\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) + b_n \sin\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \right)$$

次に a_k を求めるために、両辺に $\cos(2k\pi x/T)$ をかけてから $-T/2 \sim T/2$ の範囲で積分する。

$$\int_{-T/2}^{T/2} f(x) \cos\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) dx \approx \frac{a_0}{2} \int_{-T/2}^{T/2} \cos\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) dx + \sum_{n=1}^{\infty} \left(a_n \int_{-T/2}^{T/2} \left[\cos\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \cos\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) \right] dx + b_n \int_{-T/2}^{T/2} \left[\sin\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \cos\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) \right] dx \right)$$

右辺第1項 $\frac{a_0}{2} \int_{-T/2}^{T/2} \cos\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) dx \rightarrow$ 積分すると明らかに0

第2, 第3項：積和公式を利用

第3項は

$$\begin{aligned} \sin x \cos y &= \frac{1}{2} \{ \sin(x+y) + \sin(x-y) \} \\ \sin x \sin y &= \frac{1}{2} \{ \cos(x-y) - \cos(x+y) \} \\ \cos x \cos y &= \frac{1}{2} \{ \cos(x+y) + \cos(x-y) \} \end{aligned}$$

\rightarrow 積分すると明らかに0



係数 a_n, b_n をどう求めるか

$$\int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(x) \cos\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) dx \approx \frac{a_0}{2} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} \cos\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) dx + \sum_{n=1}^{\infty} \left(a_n \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} \left[\cos\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \cos\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) \right] dx + b_n \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} \left[\sin\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \cos\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) \right] dx \right)$$

第2項は

$$a_n \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} \left[\cos\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \cos\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) \right] dx =$$

→積分すると

$n \neq k$ の項：すべて \cos のため、やはり積分すると0

$n = k$ の項

$$\begin{aligned} \sin x \cos y &= \frac{1}{2} \{ \sin(x+y) + \sin(x-y) \} \\ \sin x \sin y &= \frac{1}{2} \{ \cos(x-y) - \cos(x+y) \} \\ \cos x \cos y &= \frac{1}{2} \{ \cos(x+y) + \cos(x-y) \} \end{aligned}$$

結局これだけ生き残るから、

よって



係数 a_n, b_n をどう求めるか

$$f(x) \approx \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} \left(a_n \cos\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) + b_n \sin\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \right)$$

次に b_k を求めるために、両辺に $\sin(2k\pi x/T)$ をかけてから $-T/2 \sim T/2$ の範囲で積分する。

$$\int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(x) \sin\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) dx \approx \frac{a_0}{2} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} \sin\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) dx + \sum_{n=1}^{\infty} \left(a_n \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} \left[\cos\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \sin\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) \right] dx + b_n \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} \left[\sin\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \sin\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) \right] dx \right)$$

右辺第1項 $\frac{a_0}{2} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} \sin\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) dx \rightarrow$ 積分すると明らかに0

第2, 第3項：積和公式を利用

第2項は

$$\begin{aligned} \sin x \cos y &= \frac{1}{2} \{ \sin(x+y) + \sin(x-y) \} \\ \sin x \sin y &= \frac{1}{2} \{ \cos(x-y) - \cos(x+y) \} \\ \cos x \cos y &= \frac{1}{2} \{ \cos(x+y) + \cos(x-y) \} \end{aligned}$$

→積分すると明らかに0



係数 a_n, b_n をどう求めるか

$$\int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(x) \sin\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) dx \approx \frac{a_0}{2} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} \sin\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) dx + \sum_{n=1}^{\infty} \left(a_n \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} \left[\cos\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \sin\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) \right] dx + b_n \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} \left[\sin\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \sin\left(\frac{2k\pi}{T}x\right) \right] dx \right)$$

第3項は

→積分すると

$n \neq k$ の項：すべて \cos のため、やはり積分すると0

$n = k$ の項：

$$\begin{aligned} \sin x \cos y &= \frac{1}{2} \{ \sin(x+y) + \sin(x-y) \} \\ \sin x \sin y &= \frac{1}{2} \{ \cos(x-y) - \cos(x+y) \} \\ \cos x \cos y &= \frac{1}{2} \{ \cos(x+y) + \cos(x-y) \} \end{aligned}$$

結局これだけ生き残るから、

よって



正弦波による分解まとめ

周期 T の波形 $f(x)$ は次のように分解できる

$$f(x) \approx \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} \left(a_n \cos\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) + b_n \sin\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \right)$$

ただし

$$a_0 = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(x) dx$$

$$a_n = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(x) \cos\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) dx$$

$$b_n = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(x) \sin\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) dx$$



これは次式に含まれるので
普通省略

これをフーリエ級数展開と呼ぶ



正弦波による分解まとめ：周期 2π の場合

周期 2π の波形 $f(x)$ は次のように分解できる

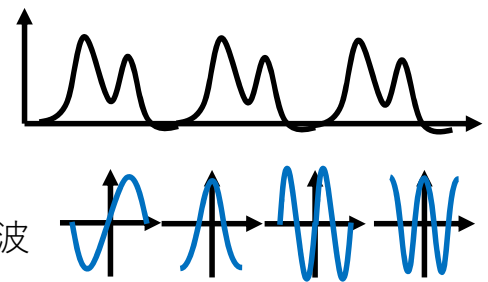
ただし

周期関数の性質から、周期を変えることは容易
→ 周期 2π の場合はきれいに書けるので特別扱い



今日のまとめ

1. 動機「関数」の性質を「分析」したい
2. 多くの現象は「周期的」である
3. 周期関数であれば、同じ周期関数である正弦波の「合成」によって表せるのではないか
4. 表せると仮定した表式をたてた
5. その未知係数を積分計算によって求めた
6. 動機は解決されたか：ある関数が、複数の「周波数」の波の合成であることがわかったという意味で「分析」できた。



$$f(x) \approx \frac{a_0}{2} + \sum_{n=1}^{\infty} \left(a_n \cos\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) + b_n \sin\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) \right)$$

$$a_n = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(x) \cos\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) dx$$

$$b_n = \frac{2}{T} \int_{-\frac{T}{2}}^{\frac{T}{2}} f(x) \sin\left(\frac{2n\pi}{T}x\right) dx$$

次回は具体的な波形に対するフーリエ級数展開



今日のレポート

1. 周期関数はどこから一周分積分しても積分値が変わらないことを示せ
2. フーリエ級数展開の係数 a_n を求める手順を示せ（ほぼ授業の清書）

レポートは紙に書いたものを写真にとり、下記からアップロードする。
Googleアカウントによりアップロードするので、大学が提供しているアカウントを使用すること。画像ファイルは5MB以下に抑えること。

<https://forms.gle/AMPPuSpWegs995LK7>

提出締め切り：講義日から一週間以内

